

今回は 夏休みに行われた関ジモト大学 の報告(その36・37)です。

## ◇ オンラインセミナー「関ジモト大学2021 online」

今年度は、昨年度に引き続きオンラインセミナーを実施しました。関市で活躍する「せき・まちづくりNPOぶうめらん」が主催する「関ジモト大学online」の場をお借りして、関市内の45企業と各企業のSDGsに関わる取り組みについての話を聞き、生徒が意見交換を行いました。

## ◇ 企業紹介

【社会福祉法人 桜友会】

桜友会には、特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム等の入所型施設と、デイサービス、認知症対応型デイサービス、訪問介護等の在宅介護のほか、相談・支援センター等の相談窓口も併設しています。認知症ケアへの体制、隣接する医療機関等のサポートも含めて、総合的なケアで安心してお過ごしいただけます。



【HP】 <https://www.hohoemi.or.jp/>

SDGs	取組中	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	今後の目標	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう
		10 人や国の不平等をなくそう	12 つくる責任 つかう責任	16 平和と公正をすべての人に		10 人や国の不平等をなくそう	12 つくる責任 つかう責任	16 平和と公正をすべての人に

## ◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

・桜友会さんでは、高齢者や児童、障がいがある方々に対しての関わり方や介護について学びました。介護の様子を実際の事例などを用いて教えてくださり、また現状の日本の課題から少子化について児童の話を伺ったりしました。自分が知らない話もとても多くあって興味深かったです。

・仕事で大事なことや人との関わり方を学ぶことが出来ました。私は今まで、障がい者の方との関わりを難しく考えていましたが、障がい者の方を一人の人間として、障がいを個性として関わるのが大切だと思いました。私が一番心に残った言葉は、「コミュニケーションの仕方は言語だけでなく一緒に何かをすることでできる」ということです。私は話すことが苦手なので、コミュニケーションは言語だけでないと聞いて、納得しました。学んだことを普段の生活にいかしていけるようにしたいです。

・「高齢者福祉施設＝最後を共に過ごす、家族の延長」という考え方が素敵だと思った。専門的な資格を持っている人がたくさんいることに驚いたし、働きながら新たな資格を取ることができるのはとても効率がいいと思った

・介護編では、高齢者に1日1回は笑ってもらう取り組みをしていると聞いた。介護施設は何種類もあり、私がFRHの個人研究で提案する際に参考にしたいと思っていた高齢者専用賃貸住宅などがあり、詳しく知ることが出来た。また、児童心理治療施設編では、学級崩壊を招いてしまうような問題児から不登校になってしまった子供を誰一人見捨てず、寄り添って心をケアするに加えて本人にあった教育を受けてもらうという姿勢で子供たちと向き合っていた。二つの中で共通しているのは、多くの職種の人が出て、個人でなくチームで支援していくというスタイルであった。また、やりがいは相手に「ありがとう」と言ってもらえたり、相手が笑ってくれたりすることだそうだ。

・施設の利用者が安心して利用できるような工夫がたくさんあり、すごいなと思いました。特に高齢者の方々の状態や症状に合わせて対応できるように、様々な施設があることを初めて知りました。また、子供を保護する施設が全国で見てもあまり多くないことを初めて知りました。岐阜県にも家や学校で上手いかず、生活しにくくなってしまっている子供が沢山いることを知って、そのような状況を作ってしまったのは子供のせいではなくてその周りにいる大人の問題であるという意見はすごく納得しました。だから自分の子供ができた時に子供が辛い思いをしないように気をつけようと思いました。

・介護福祉や児童心理養育の施設にはそれぞれの専門職の方が沢山常駐していることに驚きました。また私は中学の時にほほえみ福寿の家に職場体験に行かせてもらったことがあるので、利用者の方と職員の方の接し方や雰囲気は何となく感じていましたが、今回の話を聞いてより深く知ることが出来ました。

・今回は児童心理養育の話を知りたくてこの講話を希望したのですが、不安などを抱えている子供たちへの接し方やどのような生活をして暮らしているのか、またこの施設にいる子供たちの特徴など貴重なお話が聞いて良かったです。

・高齢者の方や子どもに寄り添って、施設にいる人が楽しく過ごせるようにしていることがわかりました。何かの理由で学校に行けない子どもたちがまた地域に戻って行けるように、優しく厳しく接していることがわかりました。特に子どもは一人ひとり個性があって、その子に合わせて接するのは大変だと思いました。また、特別扱いはしない、一人の人間として見ていると言っていたことにすごく心を打たれました。

・今回の講座を通して、三つのことを学びました。一つ目は人を援助する仕事をするのは体力だけでなく、精神的にも疲れるけど、支える側の責任として、自分自身が元気であること。二つ目は障がいのある方に対して、障がいを障がいと思わずその人の個性や特徴として受け入れること。三つ目は学生時代には今しか出来ないことに沢山興味を持って経験しておくことが今後役立つということです。福祉の仕事に携わる方ならではの話が聞いて良かったです。学んだことは今後の生活で活かしていきたいです。FRH活動の一環として福祉の話を知り、福祉関係の仕事がどんなものなのか知ることが出来ました。僕はやっぱり大変な仕事だとばかり思っていたのですが、そうではなく辛いこともあるけど楽しいこともある事が知れて、考えが変わりました。福祉というのはこれからもっと身近なことになってくると思います。高齢者や子供だけの問題ではなく僕たちの理解や協力も大切であるということをお忘れなくしたいです。

・福祉関係のお仕事に興味があるので、話を聞いて、とても参考になりました。子供の精神面

の治療では、ただ話すだけでなく、一緒に遊んで距離を縮めることも大切だと分かりました。福祉のお仕事は、直接話すことが多いので、相手が不安にならないよう、自分も元気であることが大切だと分かりました。今回のお話で、「障害を相手の個性として捉える」という言葉がとても印象に残りました。その心がけが広まれば、SDGsの「平等」に関する項目を達成できると思います。

・認知症について知ってもらうことや、どうやって、いつ、話しかけてサポートしていくのかを教えていたり、身近な人への観察をしたりしていることを知りました。認知症は、その人の問題だけではなくて家族や周りの人にも大変なことなので、周りの人にも認知症のことを詳しく知ってもらうのはいいことだなと思いました。1人で出かけてしまったご老人がいると、少し話しかけてあげようと思ってくれる若者が増えるだけで、認知症の人が迷子?になってしまうことは少なくなるのだと思いました。

◇ 企業紹介

【社会福祉法人平成会】

平成4年に関市で最初の特別養護老人ホームとなる「ハートフル」を開設しました。そして平成16年に障害者支援施設「いちいの杜ハートフル」を開設し、高齢者のみならず障害を持つ方々の支援も行っています。福祉サービスを通して、地域で困っている方々に喜びの支援を行っています。



【HP】 <https://www.heiseikai-gifu.or.jp/>

SDGs	今後の目標	
------	-------	--

◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

・障がい者だからといって、サービスを提供するのではなく、その人の特性（アレルギー、病気、筋力）を十分に理解してあくまで生活の質を上げるためにサポートしている。もし、歩きたいという人がいて転ぶ可能性が高くても、どうしたら歩けるようになるかを十分に考えてあげるという話を聞いて、職員の方々が前向きにサポートをされていて、健常者と同じような生活が送れるように取り組んでいることがわかった。

・福祉についてたくさん学ぶ事ができ、とてもいい機会になったと思いました。グループホームで認知症予防やケアプラン、多床室により経済面で厳しい方にも助けになるなど、細かなところまで考えられているのが凄いなと思いました。また、一般企業に就職した後に資格を取り社会福祉士となられたと聞いて、驚いたと同時に、自分も大人になってやりたい事などが見つかった時挑戦してみようと思いました。

・福祉について様々な話を聞かせていただきました。自宅でお風呂に入れない方に対して、お風呂用の車いす浴や寝たきりの方でも入れるストレッチャー浴などの設備が整っているとのこと

した。お年寄りの方や障がいのある方に優しい家づくりについて追究しようと考えていたのでいい話が聞けたなと思います。

・今まで知らなかった高齢者、障がい者さんのショートステイやデイサービス、また、どのように日頃から接しているのかななどを詳しく聞くことができました。こちらの業種は一般企業から転職して入ってくる人が多いということを聞いて、一つの仕事をずっとやり続けることだけではなく、自分の目標やレベルアップのために勉強して転職される方々もいることを知ることができました。高齢者の方々の生活や施設でのことを聞いて自分自身や家族の老後などの将来について考えることが大切だと思いました。

・障がいのある人の中にはただ過ごすだけでなく、創作活動を行ったりネットショッピングを楽しんだりするなど自由に過ごしている人もいることがわかった。障がいのある人はただ守られて生きていく、というように考えていたけどそうではないことがわかった。しかし障がいのある人は意思表示ができない人もいるため、介護側の意見が全面に出過ぎないように身振り手振りの意思表示を読み取り信頼関係を築くことが大事だそう。また職員は外国の人も雇って異文化交流の場を設けて利用者・職員共に刺激を与えている。障がいのある人との接し方は、やってあげるだけでなく、させてあげることも重要だと思った。

・外国人の方が介護福祉士の免許をとって、働いていると聞いて驚きました。異文化交流が生まれて、職員にとっても大きな刺激になっているとおっしゃっていたので、私も他国の人と交流してみたいと思いました。障がい者だから、健常者だからという言葉がとても心に残っています。まだまだ差別があるから、早く差別のない社会になっていくといいなと改めて感じました。福祉の仕事内容は何となく分かっているつもりだったけれど、これほど奥が深いとは思わなかったです。

・平成会さんは、高齢者の方と話す時に大切なことを教えて貰えました。まず話を共感すること、否定しないこと、だそうです。今回教えてもらった大切なことは、私の将来にも役立つ情報であり聞いてよかったと思います。私も将来養護教諭の先生になったら、相手の気持ちをしっかり理解してあげながら助言してあげたいです。